

30年を振り返って

武蔵野美術大学名誉教授 研修所講師 小松 誠氏

今から31年前、九谷焼技術研修所が開所された時から講師として関わっています。当時私は41歳で、スウェーデンから帰国して独立工房を構えて10年が過ぎ、銀座や池袋のデパートで個展をやらせてもらえるようになっていました。作っていたものは、いろいろな素材のしわやひだが作る偶然の表情を写し取り、磁器の器に移し替えたCrinkle（しわ）シリーズです。思った以上に評判が良く、たくさんの注文を貰い、うれしい悲鳴をあげていました。このころ研修所の講師の依頼があり、嬉しかったのですが、かなり躊躇していました。人前に出て話をしたりするのが苦手なために、ものづくりの道を選んだこともあります。指導の経験もない若輩に務まるものだろうか、ずいぶん思案しました。ものづくりの世界では正解の答えを一方的に教えていくものではなく、自らも一緒になって学んでいく事が良い結果を生むものです。教える事は学ぶ事であるというのを知り、引き受ける事にしました。私が招かれる理由は九谷焼らしからぬ焼き物を作っているからです。そこで課題は白無地仕上げの花器をデザイン制作するものになりました。何よりもこれまでにない独創的な形を見つけるために、発想力を高めるトレーニングも兼ねています。伝統は守るべきですが、かたくなに守るばかりだとカビがはえて劣化していきます。常に新たな視点からの穴を開けて風通しを良くしなければなりません。研修所の何人もの卒業生がこれまでにない新しい九谷焼の世界をつくりつつあります。さらに多くの卒業生が九谷焼の新しい可能性に挑戦していく事を期待しています。



ます。年齢が混ざっているメリットは沢山あり、同じ課題でも色々な表現が出てくることです。私の持論としては、各自が制作した課題を全員が見ることで、自分にはない表現や提案など、色々工夫された作品を見る機会が一番の勉強になると思っています。そして、自分が制作した課題の制作意図を毎回、全員の前で発表してもらうことにしています。それは、作品を制作したら終わりではなく、何故この表現になったのかをちゃんと伝えることも必要だと思っているからです。将来、色々な人と会うことも多いと思います。そんな時には自分が制作した意図や考え方などを伝えることも大切だと思っています。講義では、国内では上映されていない海外の映像なども見てもらい、どんな意図で制作されたのか違った価値観なども体験してもらうようにしています。このように研修所では、異質な講義や演習かもしれませんが課題を一つひとつ完成させることで、自分以外の人との違いや、制作した課題への共感などを体験してもらい、今後の制作のヒントにしてもらえればと考えています。最後に課題でも作品でも、本人が取り組む姿勢によって完成した作品は、まったく違ったものになります。少しでも自分の想いや感情など、表現したいことを実現するためには、日々の生活の中からもヒントを見つけようとする姿勢も大切です。この研修所で学んだ経験を活かして、今後の制作活動に取り組んでください。みなさんの活躍を期待しています。



「10年間の取り組み」

金沢美術工芸大学 教授 寺井 剛敏氏

今年の講義で10年目となりました。私が勤務する金沢美術大と違って、近い年齢の学生だけで無く、高校を卒業したばかりの18歳から私よりはるかに人生の先輩にあたる60歳以上の方までと一緒に課題を行うというのは新鮮でもあり、どうやって講義をしたらいいの当初はかなり戸惑いました。講義と課題をスタートした初年度は、個性的な学生が多い年だったこともあり、かなり緊張してのスタートだったと記憶してい

平成28年度の研修生を募集しています

本科（2年制）15名

研究科（1年制）15名

実習科（加飾・造形）（週1日）30名



元気で活躍している卒業生・OB！

「海外展開までの道のり」

第13期生 中田 雅巳さん



海外展開という
と、自ら海外に売
り込みに行くと思
われる方が多いと
思いますが、私の
場合は、今お世話
になっているギャ
ラリーとの出会い

が作品発表の場を国内に限らず国外に広げるきっかけになりました。26歳で独立をした頃から海外で作品発表をしたいという気持ちは持っていましたが、作品も技術もまだまだ未熟だったこともあり、そんなことは遠い先の事だと思い自分なりに技術を磨き新作を作る毎日を送っていました。数年後、東京での作品発表の機会があり、せっかく上京するのだからギャラリーや器屋を巡ろうと思い、色々と下調べをして出かけました。その時に今お世話になっているギャラリーを訪ねたことが、今の私の作品作りに大きく影響していると思います。そのギャラリーには器ではない焼物が数店展示してありました。これまで器だけを作っていた私にはすごく新鮮に感じられ引きつけられました。そこで見た作品の存在感、力強さが忘れられなくて、上京する度そのギャラリーに通うようになりました。通い始めて5年目に店主にお会いでき、作品を見て頂いたところ、即、個展が決まり、更に海外でのグループ展やアートフェアなどに参加させていただけることにもなりました。自分でも驚くような展開になり最初は戸惑いもありましたが、今は器作りだけをしていた時よりも仕事が楽しく充実した日々を送っています。

「作り続けること」

第13期生 齋藤 まゆさん



研修所を卒業して17年が経とうとしています。卒業後は「自分の作りたいものを作る」を優先させた為、当時は仕事とそれを両立させる術もなかったので実家に戻り、他の職業に就きながら作陶し続けてきました。そのスタンスは今も変わらずにいます。働きながら、まともに陶芸をしてゆく事は容易ではありません。「いかに作陶し、続けてゆくか」が私の課題と目標になりました。仕事としての陶芸を選択しなかった分、自ら作らなければ自然と辞めるだけです。給料の大半を陶芸に注ぎ込み、家には一切入れない生活を7年しました。その間、家族は一切非難せず、応援してくれました。2006年、貯めたお金を元に卯辰山工芸工房に入った経緯もあり、私の石川での生活がスタートしました。作りたいものを探求していくと、なかなか販売に至りません。生活するにはお金が必要です。このバランス感覚を養うのはとても大変でしたが、それまでの道のりは自分には必要であった用に使います。研修所に入ってから今日までの様々な出来事や出会いが今に繋がっているように思います。

九谷焼こぼれ話

天皇皇后両陛下が8月31日、九谷焼開業360年を記念した「交流するやきもの 九谷焼の系譜と展開」展（期間：8/1～9/6 場所：東京ステーションギャラリー）をご視察されました。これは両陛下が5月の全国植樹祭行幸啓で九谷焼技術研修所にお立寄りの際、御説明補助役の吉田美統先生から両陛下へのお誘いが実現したものです。両陛下は、当研修所講師で九谷焼美術館の中矢副館長の御説明に耳を傾け、全出陳作品116点を丁寧に御覧になられたそうです。

トピックス・天皇皇后両陛下ご視察

第66回全国植樹祭の式典に続き、天皇皇后両陛下がご視察され、研修生によるロクロ成形・上絵付けの
実習風景をご覧いただきました。（平成27年5月17日(日)）



本科2年 三宅 洋希君

『ロクロ成形の実技を披露した際、皇后さまから「いい作品ができるといいですね」の励ましのお言葉に力が湧きました』

本科2年 西 由香さん

『ロクロ成形の実技を披露した際、皇后さまから「完成が楽しみですですね」とお言葉をいただき、ぜひお二人に観ていただきたいです』



研究科 ^{ほおのき} 朴木 友美さん

上絵付けの実技を披露した際、スケッチブックに模様を描き、発想した絵付けに「いつもスケッチブックを持っているのですか」とお声をいただき、『模様などが浮かんだ時に、すぐに描くようにしていますとお答えし「頑張ってください」と激励をいただき、創作意欲が高まりました』

研究科 堀畑 蘭さん

『天皇陛下から「なぜトキを描こうとしたのですか」とお声をいただき「能登半島の先端の珠洲市にトキが飛来した記事を読んで題材に選びました」とお答えした時「地元いしかわ動物園で分散飼育をしています」と谷本知事からの助け船があり、場がなごみました』

九谷焼産地・企業は研修所に期待しています

【研修所卒業生と伝統工芸士】

研修所講師 九谷焼伝統工芸士会

会長 山本 篤さん



九谷焼技術研修所創立32周年を心よりお慶び申し上げます。今年は九谷焼の歴史が始まってから360周年の節目の年を

迎えました。

先人たちの素晴らしい技術を今日まで受け継いでこられたのも九谷焼に携わってきた多くの方々の努力の賜物と思っております。

私自身ろくろ師として40数年、ものづくりの現場で制作をして参りました。修業時代から独立、思い返すと様々な出来事が昨日のように思えます。そうした中で、ご縁があり、研修所の講師という機会を頂きました。

毎年、新しい研修生との出会いは新鮮であり次の九谷焼を担う作家を育成するという責任ある機会に身が引き締まる思いであります。

今では、研修所を卒業された36名の方々が伝統工芸士会に加わっています。若い方々の入会は伝統工芸士会にとっても励みになっております。確かな技術を次世代に継承していく事が難しい中、このような形で伝統を継いでいける事を誇りに思います。

しかし一方では作品を発表していく際に個人個人の発表の機会が多くなってきている様にも思います。ものをつくり、お客様の手に渡る過程の中では、作家一人の力では及ばないことも多くあります。昔ながらの間屋さんとの取り引きや地域の方々からのサポートという部分にも、今後改めて目を向けてみる時ではないでしょうか。

つくり手と、それに携わる方々とで、今後もこの素晴らしい技術を後世に継いで参りたいと思っております。

今後の九谷焼技術研修所ならびに伝統工芸士会、そして九谷焼の発展を願い挨拶にかえさせていただきます。

【研修生の受け入れにあたって】

九谷光窯 代表 利岡光一郎さん

弊窯は、かれこれ15年ほど前から研修生に来てもらっており、現在5名が古株の職人と日々製陶に勤しんでおります。中学卒業で下積みから叩き上げといった職人と研修所を出た若い職人とのギャップが面白くもあり、また互いにいい刺激になってるよう



に思います。

私自身も五代目として生まれ、長く携わってきたとはいえまだ35歳で、どちらかといえば若い部類に入っているように

思いますので、若い職人と共に歩いていってる感覚です。

工芸はご年配の方がよく仰るように、非常に難しい業態だと思います。しかし実際いろんなお客様と接すると、良いものが欲しいという需要はあり、また工芸品の持つ魅力を感じて頂けることは日本人に限らず人類共通の感覚であると感じております。景気や時代の流れを言い訳にせず、シンプルに、いい物を作る為にどうすべきかを経営、作陶に落とし込み、自問自答しながら少しずつでも前に進むことがこれからの自分たち世代に必要なだと思います。

私はかつて研修生だった若い職人と共に、年配者からは様々な技術やノウハウを盗み、これからの工芸としての九谷焼を築き上げていくべきだと思っております。

【九谷茶碗まつりについて】

石川県陶磁器商工業協同組合

理事長 嶋崎 信之さん



今年も5月3日～5日に恒例の第107回九谷茶碗まつりを開催いたしました。今年は陶芸村へ移り2回目の開催であり、且つ北陸新幹線金沢開業という節目の年で、大変混雑が予想されたので、会場と臨時駐車場を結ぶシャトルバスをピーク時は5分間隔

で運行という状態が続きましたが、心配した大きな混乱も無く、苦情等の報告もなく、来場者にある程度はご満足頂けたと思います。又、今年はシャトルバスのバス停を九谷会館裏にする事でまつり会場と陶芸村との一体感を出す事が出来、回遊性も確保できたと思います。まつり期間中にこれだけ沢山の人が陶芸村に来場するという事は研修所、自立支援工房の施設に訪れる訳であり、これを好機と捕らえ、自身の作品、名を世に出す為に大いに活用して頂きたい、又、それが自身のもの作りの今後の糧となり、得難い財産となると思います。最後に21世紀は作り手の時代といわれています。九谷焼の地で得たご縁を大切に何事も前向きに挑戦して下さい。皆様の益々の精進を期待します。

陶芸村賑わい創出「手づくりの達人市」

手づくりの達人市を仕掛けてみて

(株)満る文 東 秀樹さん



「陶芸村にもっとにぎわいが欲しい、エネルギーが欲しい」5年程前から特に強く意識していたように思います。すると全国の元気な文化イベントの情報がどんどん耳に入ってきます。目にとまります。堺の灯びとの集い、松本クラフトフェア、百万辺や上

賀茂神社の手づくり市、金津の森アートフェスタ、等々、評判のイベントを片っぴしから訪れお客さんを見ます。関係者の声を聞きます。それぞれ苦勞はしていますが大勢のお客さんが押し寄せ喜びそして楽しんでます。これなら陶芸村でも出来るぞ！ここで実行委員会を立ち上げます。お金もノウハウも無く、実に甘かったです。あちこちを訪れ参加してくれる工芸家を募りますが実績の無いところにはそう簡単に応じてくれません。眠れない日々が続きます。しかし実行委員会のメンバーがすばらしい。困難をボヤクのではなく成功の為の策を次々と考え動いてくれました。プラス思考の人が集まるとすごいものです、何とかなりました。この挑戦で研修所のスタッフにも大いに力を貸していただきましたが、私共にとって研修所がより身近な存在に感じてきたことも大きな成果のひとつかなと思っています。今後は手づくりの達人市が研修生、OBの皆さんにとって何らかのプラスの刺激になってくれればこんなにうれしい事はありません。



【編集後記】

関係の皆様のご協力のもと、第7号を発行することができました。ここに紙面を借りまして、ご執筆いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

研修所からのご案内・企画の紹介

「オープンキャンパス」開催のご案内 来年度のオープンキャンパス開催決定！！

日 時：平成28年8月21日（日）
10：00～16：00

内 容：研修生の授業内容などの紹介や、ロクロ・上絵付けの体験、上絵薪窯で焼成する体験・見学会、研修生等の作品展や卒業生によるロクロと上絵付けの実演等、盛り沢山です。



絵付け体験



ロクロ体験

◇◇◇◇◇ 新所長のご挨拶 ◇◇◇◇◇

石川県立九谷焼技術研修所 所長 松島 一富



「いきもの」から「やきもの」へ、この4月、のとじま水族館長から転任してまいりました。

昨年度、当研修所の創立30周年記念式典が無事、終えることができましたことは、九谷焼業界の皆様方のご尽力の賜物と厚く御礼申し上げます。

また、5月には、全国植樹祭の行幸啓として天皇皇后両陛下に御視察頂く機会に恵まれました。両陛下は九谷焼に対し深く御関心を示され、ひとつひとつの作品を食い入るように御覧頂きました。研修生の実習風景を御覧頂いた時も「よかったですね」とお声かけくださり、研修生にとりましては、大きな励みになりました。更にお帰り際には直接、職員に「ありがとう」のお言葉を賜りたいへん感激しました。

本県を代表する伝統産業である「九谷焼」は明暦元年（1655年）に創始され、今年360年を迎える節目の年です。今後とも業界の皆様とともに九谷焼の発展に貢献しながら、職員一同、研修生の支えになるよう精一杯頑張ってまいりたいと思います。

「研修所通信NO.7」

発行：平成27年10月

編集：石川県立九谷焼技術研修所

能美市泉台町南2番地

TEL 0761-57-3340

FAX 0761-57-3342

<http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

印刷：鶴川印刷株式会社

